

再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担当 課: 道路局国道・技術課

担当課長名:西川 昌宏

事業名	一般国道208号 (有明海沿岸道路)大川佐賀道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	自:福岡県大川市大字大野島 至:佐賀県佐賀市嘉瀬町		延長	9.0km	
事業概要					
荒尾道路、有明海沿岸道路(大牟田～大川)、大川佐賀道路は、高規格道路「有明海沿岸道路」の一部を形成し、地域間の連携及び交流の促進を支援するとともに、並行する国道208号の交通混雑の緩和等を目的とした事業である。					
H13年度事業化	H19年度都市計画決定	H24年度用地着手	H27年度工事着手		
全体事業費	約986億円	事業進捗率 (令和7年3月末時点)	約54%	供用済延長	1.7km
計画交通量	29,600 ~ 39,300 台／日				
費用対効果分析	B/C (事業全体) 1.9(1.6) 参考 2.6(2.4) [2%] 参考 3.2(3.0) [1%] (残事業) 3.3(4.2) 参考 4.3(5.8) [2%] 参考 4.9(7.0) [1%]	EIRR (事業全体) 7.0% (6.2%) (残事業) 16% (18%)	総費用 (残事業)/(事業全体) 1,617/6,734億円 事 業 費: 1,264/6,213億円 維持管理費: 206/ 375億円 更 新 費: 147/ 147億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 5,288/12,646億円 走行時間短縮便益: 4,798/11,116億円 走行経費減少便益: 384/ 1,210億円 交通事故減少便益: 106/ 320億円	基準年 令和7年
事業の効果等					
①広域交通ネットワークの形成 ・有明海沿岸道路の整備により、熊本市～鹿島市の所要時間が約1時間短縮。沿岸9都市間の連携・交流促進、広域拠点とのアクセス性向上による物流効率化などが期待される。					
②交通混雑の緩和・安全性の向上 ・有明海沿岸道路の整備により、並行現道からの交通転換が図られ、交通混雑が緩和するとともに、死傷事故件数が減少することが期待される。					
③広域的な観光活動の支援 ・有明海沿岸道路の整備により、沿線地域の観光周遊性向上や国内外からの更なる観光客数増加による地域活性化が期待される。					
④地域防災の支援 ・有明海沿岸道路の整備により、災害時に代替路としての機能が確保され、迅速な救命活動や周辺地域との円滑な連携等を支援することが期待される。					
⑤生活環境の改善 ・自動車の走行性向上による環境への影響低減(CO ₂ ,NO ₂ ,SPM削減)					
関係する地方公共団体等の意見					
佐賀市をはじめとする3市2町等で構成される①有明海沿岸道路建設促進佐賀県期成会(会長:佐賀市長)や大牟田市をはじめとする4市で構成される②有明海沿岸道路建設促進福岡県期成会(会長:大牟田市長)や福岡県、佐賀県、熊本県の県議会議員で構成される③有明海沿岸インフラ整備3県議会連絡会議等により早期整備の要望を受けている。(①令和6年7月、②令和6年11月、③令和7年7月)					
県の意見: (福岡県)					
大川佐賀道路は、重要港湾三池港、九州佐賀国際空港などの広域交通拠点及び有明海沿岸の都市群を連携する高規格道路であり、福岡県と佐賀県の連携強化及び交流促進に加え、並行する国道208号の交通混雑の緩和等への寄与が期待される。 従つて、「対応方針(原案)」案のとおり事業を継続すべきと考える。					
今後も事業の実施にあたり、適切な調査及びコスト縮減に努めていただくとともに、4車線化の早期完成に向け、引き続き事業の推進をお願いしたい。					

(佐賀県)

整備を強く望んでいるところであり、継続することについては、異議ありません。

小さな都市が各地に点在する分散型県土を形成している当県にとって、県内都市間や隣県都市及び主要な物流拠点・観光地等を結ぶ交通ネットワークの強化が必要であるため、有明海沿岸道路をはじめとした広域幹線道路ネットワークの整備が不可欠となっています。

有明海沿岸道路は、熊本市から鹿島市に至る重要な道路であり、県として佐賀唐津道路と接続するエリア(Tゾーン)の整備を重点的に取り組んでいるところです。

また、有明海沿岸地域では、民間団体による「ありあけ海道盛り上げ隊」が設立し、令和7年3月には「ありあけ海道～トレジャーロード」が日本風景街道に登録される等、地域も盛り上がりを見せております。

大川佐賀道路の整備が促進され、有明海沿岸地域が1つにつながることで、人・モノの交流が更に促進されると期待しており、大川佐賀道路の全線について、早期に整備を進めていただきたい。

今後ともコスト縮減を図りながら、早期整備に努めていただきたい。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

沿線地域の人口は減少傾向にあるが、一世帯あたりの自動車保有台数も熊本県・福岡県・佐賀県合計及び九州全体を上回っており、自動車交通への依存は高いと考えられる。

平行現道(国道208号)の交通量は横ばい傾向で、依然として事業の必要性は高い。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成13年度に事業化、用地進捗率約82%、事業進捗率約54%(令和7年3月末時点)

令和4年度までに、おのしま大野島IC～もろどみ諸富IC間 延長1.7km(自専部2/4)開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

施設の構造や施工等に変化はないが、新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

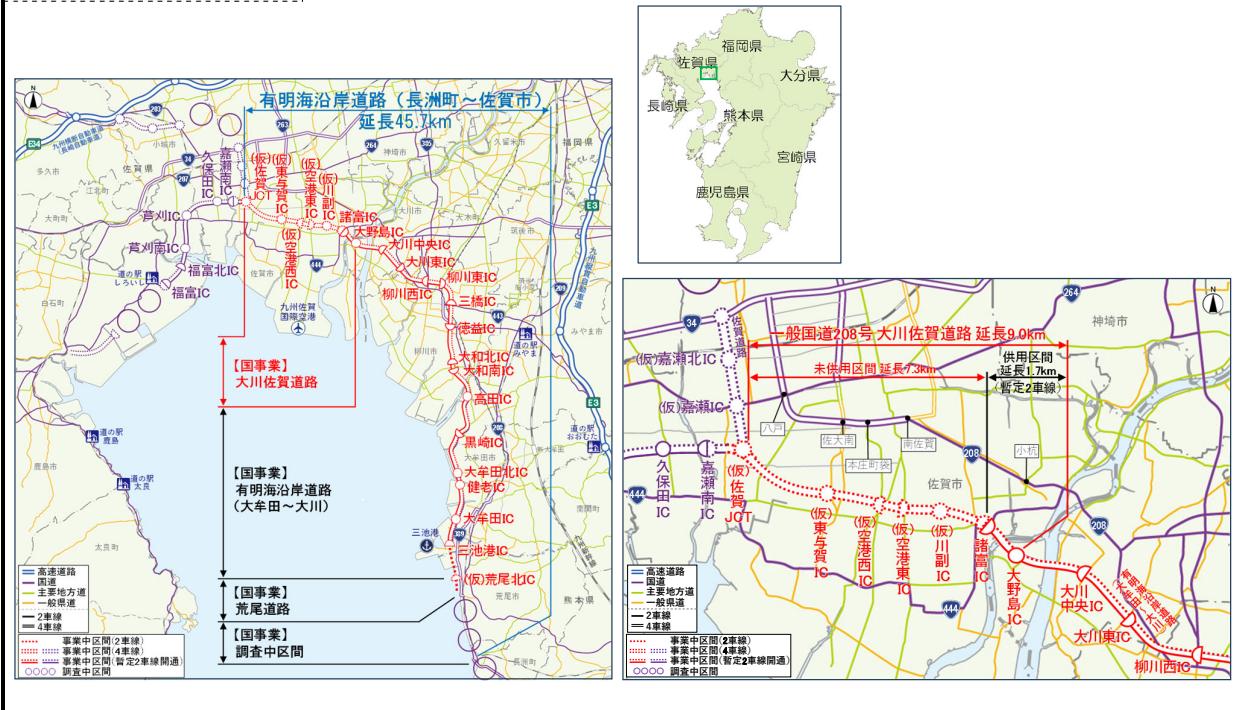
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

・以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。〔 〕内は社会的割引率の値)

(※B/Cの値は、長洲町～佐賀JCTを対象とした場合、()書きの値は事業化区間を対象とした場合の費用便益分析結果。)